



2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年2月9日

上場取引所 東

上場会社名 フィールズ株式会社

コード番号 2767 URL https://www.fields.biz/

代表者(役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 山本 英俊

問合せ先責任者(役職名) 執行役員 グループ経営管理部副部长 (氏名) 畑中 英昭 (TEL) 03-5784-2111

四半期報告書提出予定日 2022年2月10日 配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日~2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	72,531	148.5	2,366	—	2,590	—	1,787	—
2021年3月期第3四半期	29,182	△21.5	△1,865	—	△1,690	—	△2,677	—

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 2,194百万円(—%) 2021年3月期第3四半期 △2,564百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	55.29	55.16
2021年3月期第3四半期	△81.77	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	78,369	30,703	37.9
2021年3月期	52,370	30,443	56.9

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 29,702百万円 2021年3月期 29,803百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2022年3月期	—	0.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2022年3月期の配当予想については、現時点では未定とさせていただきます。

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日~2022年3月31日)

連結業績予想につきましては、2021年5月13日発表の「2021年3月期決算短信」公表の通り、市場環境を見極めながら合理的な算定根拠の収集を続け、予想の開示が可能となった段階で速やかに公表する予定です。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2022年3月期3Q	34,700,000株	2021年3月期	34,700,000株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2022年3月期3Q	2,368,300株	2021年3月期	2,368,300株
------------	------------	----------	------------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2022年3月期3Q	32,331,700株	2021年3月期3Q	32,744,994株
------------	-------------	------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績および連結業績予想に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(会計方針の変更)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績および連結業績予想に関する説明

①当第3四半期連結累計期間（2021年4月～12月）の概況

当期における当社グループでは、アフターコロナ/ウィズコロナ時代において人々から求められる娯楽・余暇の在り方の変化を前向きに捉え、企業理念である「すべての人に最高の余暇を」のもと、「IP事業」と「PS事業」を二本柱としてビジネスを推進しています。

IP事業では、(株)円谷プロダクションと(株)デジタル・フロンティアの2社をグローバルなIP企業として育成することにフォーカスしています。(株)円谷プロダクションについては、「ウルトラマン」IPを主軸としたIPビジネスの積極展開に加えて、「大型新規IPの開発」「デジタル領域へのシフト」「中国・アジア・北米を中心とした海外展開」が進捗しています。(株)デジタル・フロンティアについては、同社が有するCG・VFX映像制作技術を活かし、映像領域はもとより新たな事業領域に向けた取り組みが進捗しています。PS事業では、業界最大手のディストリビューターであるフィールズ(株)の販売力を活かし、効率的な収益確保と持続的な成長が可能な事業基盤の構築を実行しています。当社グループでは、これら各事業領域における事業計画が着実に進捗しています。

当第3四半期連結累計期間における各事業・グループ各社の取り組みは、以下の通りです。

(株)円谷プロダクションは、「ウルトラマン」シリーズを中心とした様々な施策による価値の高まりを受けて、国内ライセンス事業はもとより中国等アジアを中心にマーチャンダイジング事業が堅調に推移し、収益に寄与しています。映像事業では、Netflix等を通じて『ULTRAMAN』シーズン2の配信開始が2022年4月14日、庵野秀明氏が企画・脚本を手掛ける『シン・ウルトラマン』の公開日が同年5月13日とそれぞれ決定し、配信・公開に向けた取り組みを順次進めています。デジタル事業領域では、(株)NTTドコモとの共同事業や独自のECサイトに加え、従来の映像作品やリアルなライブステージでは表現できなかったインタラクティブなストーリー展開をオンラインで体験できる没入型ライブアトラクション『INTO THE STORY』を実施するなど、同社のIPとデジタル技術を掛け合わせた新規事業へのチャレンジを引き続き積極的に展開しています。

(株)デジタル・フロンティアは、国内大手ゲーム会社を中心としたCG映像制作や、NetflixとのVFX映像制作等が引き続き堅調に推移しています。このほか、デジタルツインをはじめとした3Dモデルやデジタル空間の活用が期待が寄せられているなか、高精細な3DCGアバターによる遠隔接客サービス『KSIN（ケシン）』を(株)ユニキャストと共同で開発しています。既にNEXCO東日本（東日本高速道路(株)）が手掛けるプログラムの一部に採択されており、実用化に向けてさらなる開発を進めています。

PS事業を担うフィールズ(株)は、第3四半期（10月～12月）に、下表1のとおり、パチンコ1機種、パチスロ2機種を販売し、計6.4万台を納品しました。なかでも、パチンコ機として初めて中央にハンドルを持つ「スマートハンドル」を採用する等、ホールならびにファンからの高い期待感に迎えられ12月に納品したビスティブランドのパチンコ『新世紀エヴァンゲリオン～未来への咆哮～』は、非常に高い稼働で推移しています。これにより、第3四半期連結累計期間の納品台数は計14.2万台となり、順調に推移しております。加えて、今後の市場環境に即したファンの顧客満足およびホールの収益性向上を兼ね備えた商品を安定的に供給するべく、着実に準備を進めています。

【表1：第3四半期累計期間の主な納品機種】

納品時期	ブランド	主な納品機種	納品台数
第1四半期	オッキー	パチンコ『GANTZ極』	5.0万台
	オッキー	パチンコ『ウルトラマンタロウ2』	
	ニューギン	パチンコ『バルセルク無双』	
	エンターライズ	パチスロ『百花繚乱 サムライガールズ』	
第2四半期	ビスティ	パチンコ『宇宙戦艦ヤマト2202 愛の戦士たち』	2.7万台
	大一商会	パチスロ『うしおととら 雷槍一閃』	
第3四半期	ビスティ	パチンコ『新世紀エヴァンゲリオン～未来への咆哮～』	6.4万台
	スパイキー	パチスロ『GANTZ極 THE SURVIVAL GAME』	
	エンターライズ	パチスロ『モンスターハンター：ワールド TM 黄金狩猟』	
			累計14.2万台

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における連結業績は、売上高72,531百万円(前年同期比148.5%増)、営業利益2,366百万円(同4,232百万円の増加)、経常利益2,590百万円(同4,281百万円の増加)、親会社株主に帰属する四半期純利益1,787百万円(同4,465百万円の増加)となりました。

このうち、(株)円谷プロダクションの単体業績は、売上高3,847百万円(前年同期比49.1%増)、営業利益1,075百万円(同220.4%増)、経常利益1,086百万円(同213.8%増)、四半期純利益910百万円(同408.6%増)となりました。また、フィールズ(株)の単体業績は、売上高64,299百万円(前年同期比177.3%増)、営業利益1,005百万円(同3,489百万円の増加)、経常利益1,217百万円(同3,385百万円の増加)、四半期純利益1,264百万円(同4,012百万円の増加)となりました。

その他、グループ各社の業績も順調に進捗しました。

②通期の見通し

「IP事業」「PS事業」の各領域において、第4四半期(1月-3月)も継続して順調に推移する見通しです。

(株)円谷プロダクションは、「ウルトラマン」シリーズを中心とした国内ライセンス事業および中国等アジアを中心としたマーチャンダイジング事業が堅調に推移する見通しです。また、2022年1月には、(株)NTTドコモが開発したVR空間での没入感が高いコンテンツの大規模配信を可能とする先端技術「リアルモーションキャプチャ」のVRデモコンテンツに『ウルトラマン』が採用されています。加えて、楽天グループ(株)がNFTマーケットプレイスとして開始するサービス『Rakuten NFT』で提供する初めてのコンテンツとして『ULTRAMAN』が選定される等、新たなメタバース関連ビジネスへ向けた研究や取り組みを戦略的に進めています。

(株)デジタル・フロンティアは、従来のCG映像制作やVFX映像制作等が堅調に推移する見通しです。また、昨今のいわゆるメタバース等デジタル仮想空間の活用に対する産業横断の幅広い期待を背景として、同社が培ってきた高品質な3Dモデル(アバターやアセット等)のクリエイティブ能力が従来のエンターテインメント映像制作以外の業界からも注目され、新たなビジネスの機会が生まれ、広がりを見せています。この機会を戦略的に捉え、成長エンジンとすべく中長期的な戦略策定と事業企画を進めています。

フィールズ(株)は、パチンコ『新世紀エヴァンゲリオン～未来への咆哮～』が高稼働を保ち推移していることから、1月以降も多くのホールから追加受注をいただいています。さらに、ビスティブランドのパチスロ『新世紀エヴァンゲリオン～魂の共鳴～』、スパイクブランドのパチスロ『BLACK LAGOON ZERO bullet MAX』等の販売を開始しています。その他販売予定機種についても、既に型式試験は適合済みであり、これらの商品を市場環境を見極めながら最適な時期に投入することで、納品台数の最大化を図ってまいります。

その他グループ各社の業績も堅調に推移しています。

なお、2022年3月期の連結業績予想につきましては、足元での変異株急拡大が市場に与える影響を見極めるため、現時点では未定とさせていただき、合理的な算定根拠の収集を継続し、業績への影響が予測可能となった時点で速やかに公表させていただきます。

(注1) 本短信に記載の数値は全て当社推計によるものです。

(注2) 本短信に記載の商品名は各社の商標または登録商標です。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

流動資産は、64,532百万円と前連結会計年度末比25,385百万円の増加となりました。これは主に売上債権の増加によるものです。

有形固定資産は、4,509百万円と前連結会計年度末比237百万円の増加となりました。これは主に土地の増加によるものです。

無形固定資産は、2,526百万円と前連結会計年度末比101百万円の減少となりました。これは主にのれんの減少によるものです。

投資その他の資産は、6,800百万円と前連結会計年度末比477百万円の増加となりました。これは主に出資金の増加によるものです。

以上の結果、資産の部は78,369百万円と前連結会計年度末比25,999百万円の増加となりました。

(負債の部)

流動負債は、39,340百万円と前連結会計年度末比28,445百万円の増加となりました。これは主に仕入債務の増加によるものです。

固定負債は、8,325百万円と前連結会計年度末比2,706百万円の減少となりました。これは主に長期借入金の減少によるものです。

以上の結果、負債の部は47,665百万円と前連結会計年度末比25,738百万円の増加となりました。

(純資産の部)

純資産の部は、30,703百万円と前連結会計年度末比260百万円の増加となりました。これは主に非支配株主持分の増加によるものです。

(キャッシュ・フローの状況の分析)

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ890百万円増加し、25,400百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、4,176百万円（前年同期は4,865百万円の収入）となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益2,863百万円、仕入債務の増加22,333百万円、売上債権の増加20,450百万円によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、1,218百万円（前年同期は917百万円の支出）となりました。これは主に出資金の払込による支出1,199百万円、固定資産の取得による支出911百万円、投資有価証券の売却による収入488百万円、関係会社株式の売却による収入319百万円によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、2,083百万円（前年同期は3,749百万円の支出）となりました。これは主に長期借入金の返済による支出3,150百万円、短期借入金の増加1,210百万円、配当金の支払322百万円によるものです。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	24,610	25,500
受取手形及び売掛金	5,325	-
受取手形、売掛金及び契約資産	-	25,646
電子記録債権	67	720
商品及び製品	700	388
仕掛品	3,589	3,034
原材料及び貯蔵品	1,901	2,090
その他	3,024	7,239
貸倒引当金	△71	△86
流動資産合計	39,147	64,532
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,645	1,922
その他	2,626	2,586
有形固定資産合計	4,272	4,509
無形固定資産		
のれん	1,875	1,686
その他	752	840
無形固定資産合計	2,628	2,526
投資その他の資産		
投資有価証券	1,803	1,440
長期貸付金	457	235
その他	4,469	5,390
貸倒引当金	△408	△265
投資その他の資産合計	6,322	6,800
固定資産合計	13,223	13,836
資産合計	52,370	78,369
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,610	26,411
短期借入金	253	1,466
1年内返済予定の長期借入金	3,863	3,555
未払法人税等	100	509
賞与引当金	288	136
役員賞与引当金	14	9
その他	2,764	7,250
流動負債合計	10,895	39,340
固定負債		
長期借入金	6,837	4,196
退職給付に係る負債	770	810
資産除去債務	861	800
その他	2,561	2,519
固定負債合計	11,031	8,325
負債合計	21,927	47,665

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,948	7,948
資本剰余金	7,579	7,579
利益剰余金	16,104	16,087
自己株式	△1,946	△1,946
株主資本合計	29,686	29,669
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	116	37
為替換算調整勘定	1	1
退職給付に係る調整累計額	△0	△6
その他の包括利益累計額合計	117	32
新株予約権	7	23
非支配株主持分	632	978
純資産合計	30,443	30,703
負債純資産合計	52,370	78,369

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
売上高	29,182	72,531
売上原価	22,027	61,155
売上総利益	7,154	11,375
販売費及び一般管理費	9,019	9,009
営業利益又は営業損失(△)	△1,865	2,366
営業外収益		
受取利息	4	2
受取配当金	2	1
仕入割引	14	154
持分法による投資利益	182	42
出資分配金	12	20
その他	93	91
営業外収益合計	309	312
営業外費用		
支払利息	71	61
貸倒引当金繰入額	28	17
その他	34	9
営業外費用合計	133	87
経常利益又は経常損失(△)	△1,690	2,590
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	-	231
関係会社株式売却益	-	121
その他	-	1
特別利益合計	0	356
特別損失		
固定資産除却損	10	20
訴訟関連損失	10	18
新型コロナウイルス感染症による損失	609	43
その他	3	1
特別損失合計	634	84
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△2,324	2,863
法人税等	267	585
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△2,592	2,277
非支配株主に帰属する四半期純利益	85	489
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△2,677	1,787

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△2,592	2,277
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	26	△77
為替換算調整勘定	0	0
退職給付に係る調整額	0	△6
その他の包括利益合計	27	△82
四半期包括利益	△2,564	2,194
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△2,658	1,703
非支配株主に係る四半期包括利益	94	491

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△2,324	2,863
減価償却費	611	526
のれん償却額	217	189
貸倒引当金の増減額(△は減少)	16	18
賞与引当金の増減額(△は減少)	△87	△151
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△4	△4
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	57	32
受取利息及び受取配当金	△6	△4
持分法による投資損益(△は益)	△182	△42
支払利息	71	61
売上債権の増減額(△は増加)	8,487	△20,450
棚卸資産の増減額(△は増加)	733	446
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,693	22,333
未払又は未収消費税等の増減額	△716	402
出資金償却	246	189
その他	△306	△1,929
小計	5,117	4,481
利息及び配当金の受取額	5	4
利息の支払額	△71	△61
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△186	△247
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,865	4,176
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△252	△719
有形固定資産の売却による収入	4	0
無形固定資産の取得による支出	△194	△191
投資有価証券の償還による収入	-	109
投資有価証券の取得による支出	△44	△65
投資有価証券の売却による収入	43	488
関係会社株式の取得による支出	△99	△10
関係会社株式の売却による収入	-	319
出資金の払込による支出	△260	△1,199
貸付けによる支出	△47	△0
貸付金の回収による収入	32	34
その他	△100	16
投資活動によるキャッシュ・フロー	△917	△1,218
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	80	1,210
長期借入れによる収入	710	200
長期借入金の返済による支出	△3,990	△3,150
自己株式の取得による支出	△365	-
配当金の支払額	△331	△322
その他	147	△21
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,749	△2,083
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	198	875
現金及び現金同等物の期首残高	24,725	24,510
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	14
現金及び現金同等物の四半期末残高	24,924	25,400

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しています。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」に記載の通りです。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しています。

(会計方針の変更)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしています。

これにより、パチンコ・パチスロ遊技機の代行店販売に係る収益について、従来は、遊技機がパチンコホールに納品され、遊技機メーカーへ遊技機代金が納入された時点で遊技機メーカーから受け取る代行手数料の金額で収益を認識していましたが、当社が総発売元となる取引については、顧客への財又はサービスの提供における当社の役割(本人又は代理人)を判断した結果、代理店販売と同様に遊技機を出荷した時点で当社がパチンコホールに販売した遊技機代金で収益を認識する方法に変更しています。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しています。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しています。この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は33,740百万円増加し、売上原価は31,248百万円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ2,492百万円増加しています。また、利益剰余金の当期首残高は1,441百万円減少しています。収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することとしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っていません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載していません。

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしています。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。